

2019(令和元)年度

# 京都府NIE実践報告書



**Newspaper in Education**

(教育に新聞を)

京都府NIE推進協議会

# 目次

---

□ 発刊にあたって	
	京都府N I E推進協議会 会長 位藤 紀美子 …… 1
1. 社会や友だちとの「つながり」を感じる新聞活用	
	京都市立新町小学校 西村 崇 …… 3
2. 新聞を活用した「コミュニケーション力」の育成	
	京都市立竹の里小学校 藤江 智美 …… 7
3. 新聞に親しみ教科等の指導に生かす	
	宇治市立大久保小学校 上野 純江 ……11
4. 新聞に親しみ、新聞を通して自分の考えを深めよう!伝えよう	
	伊根町立本庄小学校 西原 栄廣・橋本 愛 ……17
5. N I Eで実践する新聞の読み比べ授業	
	京都市立下鴨中学校 松坂 亮児 ……22
6. 図表を指しながら記事の内容を説明し、考えをもつ	
	京都市立深草中学校 四方 覚子 ……23
7. 新聞を使って進路や地域のことを考え、対話力・考察力・情報収集力を高める 授業実践	
	京都府立須知高等学校 辻垣 晃一 ……30
8. 読解力を育てるN I E活動	
	京都市立京都御池中学校 畑 勝美 ……35
9. 身近に感じる「新聞」～新聞を読む習慣の確立と環境づくりを通して～	
	綾部市立上林中学校 船越 寿子 ……39
□これまでの実践校、準実践校、奨励校、トライアル校	……………44

※報告書の所属・肩書きは、2019年度在籍校のものです。

南丹市立八木中学校・ノートルダム女学院中学高等学校は  
諸般の事情により割愛しています。

2019（平成30～令和元）年度N I E 報告書

ご あ い さ つ

京都府N I E 推進協議会

2019 年度会長 位藤 紀美子

2019 年度N I E 実践報告書をお届けいたします。京都府における小学校、中学校、高等学校でのN I E 活動は、実践指定校を中心に、これまで順調に進められてきております。毎日の教育実践に携わる先生がたをはじめ、N I E 推進にご協力・ご支援を賜っている教育委員会や学校、新聞社、日本N I E 学会等の諸機関のかたがたに、篤くお礼を申し上げます。

このたびは、年間の総仕上げとなる1月以降（第3学期から新年度にかけて）、新型コロナ禍のため、学校で通常の授業ができなくなるという非常事態となり、教職員のかたがたは、学校をあげて知恵と工夫を集結し、感染予防もしつつ教育活動を継続してこられました。そうした中で、今回、各学校からそれぞれの【N I E 活動実践の報告—その成果と課題—】が出され、『2019 年度の報告書』を纏めることが出来、ありがたく存じます。心より感謝いたします。

2020 年度にはいってからも、コロナ禍は、世界中に蔓延し終息の見通しが容易に立たず、幼児、児童・生徒、学生、そしておとなも「ステイ・ホーム」の生活が続く中、改めて、人と人との交流や社会との関わりの大事さに気づき、情報入手のための新聞やテレビに加え、発信もできるパソコン等の活用が急速に広がってきています。特に、学校では、オンライン授業が取り入れられはじめています。

これからは、（双方向のシステムにするための予算措置を伴うため、全ての学校や家庭に設置するのに、多少時間がかかるにしても）対面の授業等（教室内だけでなく校外学習も含め）とオンライン授業とを目的により選択的に使用することになりそうです。そうになると、N I E と I C T と図書館教育を含む「広義の情報教育」（情報収集→選択→活用・発信）が、これまで以上に、重要になります。

情報源となる、教科書はもとより、新聞、テレビ、インターネット、図書等、それぞれの特徴をふまえ、それらを活用して、自分の想を耕し、独自の意見を形成する。その上で、目的により、相手と場に応じた適切な表現・発表を行う。その一連の過程において、起点となるのが、児童・生徒それぞれの興味や問題意識です。その興味や問題意識を得るのに、より有効なのが、新聞です。毎日の世界の動向が一目でわかり、様々な分野の多様な記事が掲載されていて、時間のあるときにいつでも目を通すことが出来ます。それまで関心のないことでも、目にとまり、新たな興味喚起に繋がることもあり、視野の拡充に、有効です。また、興味や問題意識をもとに探究するのに、インターネット等を活用するだけでなく、特に得られた想を熟成するには、読書も必要です。そうして、同年齢をはじめ、い

ろいろな人達との討議等の協働学習により、より説得力のある意見に仕上げていくことができます。

現在、児童・生徒の日常では、スマートフォン等が少なからず使われており、インターネットに簡単に繋ぐことができます。それだけに、情報の確実さ（信憑性）や発信する際の責任が大事です。対面の時以上に、コミュニケーションの基本を習得する必要があります。併せて、新聞記事に使用されている、多様な思考・表現法から、基本となるもの（① 事実に基づく ②比較・対照 ③分析・分類 ④類推 a原因・理由—結果 b帰納、演繹）を、児童・生徒のそれぞれの発達段階に応じて活用できればと考えています。

今後、NIE学習が、個々の児童・生徒の日常生活に定着し、生涯の自己形成に活かされるとともに、よりよい学級づくりや学校づくり、さらには、よりよい地域社会づくりにも活用できるようになればと願っております。

どうぞこれからもいっそうのご指導やご支援をお願い申し上げます。

# 社会や友達との「つながり」を感じる新聞活用

京都市立新町小学校 教諭 西村 崇

## 1. 実践の概要

本校は、「自ら進んで考え、ともに高め合い、夢に向かって歩む子の育成」という学校教育目標を掲げ、研究主題「社会的自立を目指す子どもの育成～主体的に取り組む子どもを目指して～」と設定し、取り組みを進めてきた。

本年度は、研究で目指す子ども像である、「人や社会とかかわり、学び合おうとする子・自分を知り、ねばり強く取り組む子・進んで課題を解決する子・夢や目標を思い描く子」を達成するために、キャリア（生き方探究）教育に取り組んできた。

その中で、新聞を授業の中で取り入れたり、自ら進んで読んだりすることで、学んだことと社会とのつながりを感じることができるのではと考えた。さらに、はがき新聞等の新聞作成をすることにより、友達との多様な意見に触れ、学び合おうとする力の向上につながると考え、取組を進めていった。

今年度は、高学年を中心に新聞に親しむことができるように、高学年の教室が並ぶ廊下にNIEコーナーを設置し、いつでも自由に閲覧できるようにした。

一般紙だけでなく、子ども新聞や新聞のワークシート、児童の作成した新聞も掲示をしていくことで、新聞に興味を持つ間口を広げ、できるだけ多くの児童が新聞を目にし、少しでも手に取ってみようと感じられるように工夫をしてきた。



## 2. 実践事例

### ①国語科

4年生「アップとルーズで伝える」の学習では、新聞の中の写真に着目し、単元のゴール地点を「アップとルーズの特徴が生かされた写真を新聞から選んで説明しよう」とし、学習を進めていった。

教科書を読んでアップとルーズの特徴

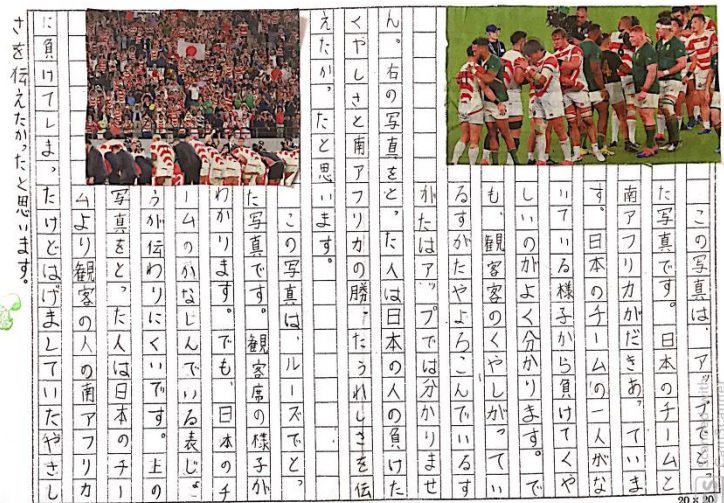


をみんなでつかんでいった後、実際の新聞を手にとると、「やった。アップのいい写真が見つかった。」「これはアップとルーズのどちらかな。」などと、自然と子どもたちの学び合いが始まり、意欲をもって記事のスクラップ活動に取り組んでいくことができた。



学級39名で取り組んだが、新聞は写真の数も種類も大きさも豊富なので、自分の好きな写真をどんどん選んでいくことができていた。また、ラグビーW杯や千葉県の大豪雨災害などの旬の話題であれば、記事を読み取ることが難しい児童にとっても、写真の伝えたいことが自分で理解できていた。

この学習を通して、写真1枚とっても、カメラマンの思いがあり、この写真が何を伝えたかったのかと、落ち着いて考えるきっかけとなった。「どのように伝えるか、どうしたら伝わりやすいのか」は、今後の学習にも生かしていける学習となった。



## ②算数科



算数科「がい数とその計算」でもスクラップ活動に取り組んだ。

子どもたちが「身の回りにあるがい数を探してみよう。」という問題に触れたときに、あまり見つけることのできない児童がいた。

そこで、「新聞にはおそらくたくさんのがい数が使われているよ。先生は5分休憩で10個以上見つけたよ。」という、「先生、新聞をとって

きていいですか。」と多くの児童が言ったので、みんなで探してみることにした。すると、「賞金女王との差は約1500万円」「地震の震源の深さが約10km」など、私たちの日常にはがい数が欠かせないものになっていることを実感することができ、進んで課題を解決しようとする力の向上につながった。

③社会科

「くらしとごみ」の学習では、北部クリーンセンターに見学に行ったことや、ゴミについて探究したことをもとに、まとめ新聞の作成に取り組んだ。

4年生になって初めて書くにあたって、国語科「新聞を作ろう」の学習と関連し、新聞の特徴を確かめたり、割り付けを考えたり、取材の仕方を学んだりした。

また、単元の導入には実際の新聞を手に取り、「見出しが大きくて短く書いてある」「写真やグラフがあるとわかりやすい」などと本物の新聞から多くのアイデアを得ることができていた。

この学習を通して、読み手を意識した紙面にするための工夫を考えることができた。

の	最	の	く	い	け	る	が	め	い	こ
で	後	好	所	う	で	の	悲	で	の	話
ん	に	ま	ず	事	は	は	し	ん	ん	の
ん	主	な	私	に	不	自	ん	で	虫	の
虫	人	所	は	気	分	分	い	い	白	
だ	け	ら	で	う	え	悲	の	か	い	れ
れ	げ	で	ず	所	て	し	だ	り	る	で
も	は	ん	な	が	い	み	私	で	の	も
同	な	虫	な	好	か	を	は	は	た	持
じ	く		な	ま	な	こ	の	な	は	た
					ら	ら	の	い	は	て
						の	の	ら	ほ	て
						の	の	の	ぼ	て
						の	の	の	ぼ	て
						の	の	の	ぼ	て
						の	の	の	ぼ	て

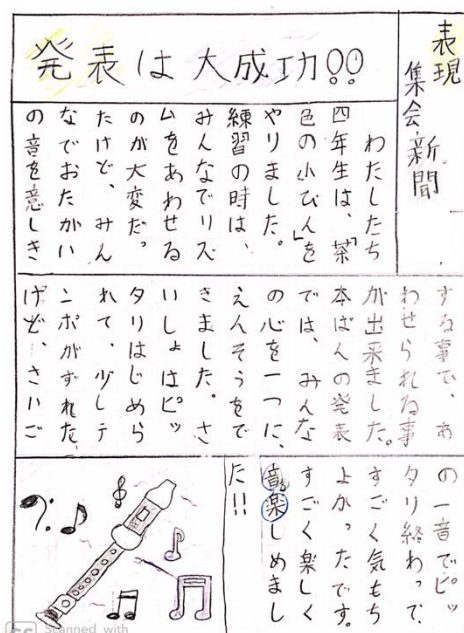
④はがき新聞

自分の伝えたいことをコンパクトにまとめる、また、短時間で多くの人と交流できる良さを生かして、はがき新聞作りにも取り組んだ。

国語科の学習では、「ごんぎつね」の単元で新見南吉作品を、「初雪のふる日」で安房直子作品を並行読書し、共通点やちがいを感じながら同じ作者の作品を読み比べる活動をした。その紹介にはがき新聞を活用した。

書いたはがき新聞を、同じ本を選んだ人同士、違う本を選んだ人同士で交流することで、友達同士の感じ方の違いに気づき、「この本も読んでみたい。」 「そんな感じ方もあるんだな。」と、考えを広げたり深めたりしていくことにつながった。

グループでの交流の後には、模造紙に一覧にして掲示し、たくさんの友達の意見も読めるようにした。短時間でグループ交流、全体交流を行うことができ、友達とのつながりを感じることができる良さがあると感じた。



子どもたちははがき新聞を書いていく中で、自分の一番伝えたいことを選んで、短くコンパクトにまとめる力がついてきたように感じた。そこで、教科の学習だけでなく、運動会や表現集会などの行事の振り返りにも活用していった。なりたい自分に近づくために、目標を立てて振り返り、それを友達と交流して高め合うことは、子どもの自己肯定感が高まり、学級経営にも効果的に生かされた取組となった。

### 3. 成果と課題

#### 〈成果〉

NIE コーナーに来て新聞を読みに来る子が年度当初から比べると増えていき、会話に新聞記事にある時事問題が出てくるなど、新聞に対しての興味関心が増した。また、はがき新聞や教科新聞には多くの学年で取り組み、学年ごとの発達段階に合った新聞の書き方やその有効性も考えることができた。また、新聞を通して子どもたちが主体的に活動している場面を何度も見ることもできたので、子どもの興味関心を引き出すのに新聞が有効に活用できることが分かった。

#### 〈課題〉

新聞をどのように授業の中で活用していけばいいのかに悩む教師が多く、取り組む時間等の問題から学校全体で共有するまでには至っていない。教師側が意識して学習と関連した記事に注目したり紹介したりすることで、子どもが学習したことと社会とのつながりをより感じられるようになると思う。

単に新聞を使えばいいではなく、なぜ新聞なのか、どのような力を高めるのに有効かを話し合い、校内研究と上手くリンクさせて取組を進めていきたい。



## 新聞を活用した「コミュニケーション力」の育成

京都市立竹の里小学校 教諭 藤江 智美

### 1. 実践の概要

本校は学校教育目標「自分らしく生き、未来を切り拓く子 ～やればできる！～」を掲げ、研究主題「互いの思いや考えを共有し、自分の言葉で豊かに表現できる子 ～グループコミュニケーションを位置付けた授業づくりを通して～」と設定し、取り組みを進めてきた。

昨年度は実践指定校1年目として、言語活動を充実させる取組の1つとしてNIE活動を取り入れた。家庭で新聞を購読していない子ども、新聞を読んだことや見たことがない子どもが少なくないという本校の実態から昨年度はまず、子どもたちが新聞を身近に感じ、親しみをもつことができるように取組を進めていった。2年目となる今年度は、各教科や特別活動など様々な場面で積極的に新聞を取り入れ、新聞を通して子どもたちが自分の思いや考えを伝え合ったり、話し合ったりする活動をすることで、コミュニケーション力の育成を目指した。

### 2. 実践事例

#### (1) 新聞の置き場所と整理方法

昨年度に引き続き、図書室の廊下前に「朝日小学生新聞コーナー」を設置し、多くの学年の子どもたちが、いつでも自由に閲覧できるようにした。また、近くの掲示板には、図書委員会の子どもたちによる「新聞を読もう ～おすすめの記事紹介～」コーナーを設けた。おすすめの記事やみんなに伝えたい記事を選び、選んだ記事について内容、自分の意見や思い、読み手への問いかけなどをまとめたものを掲示した。新しい記事が掲載されると、子どもたちが立ち止まって記事を読んでいる姿や、先生たちが図書委員の子どもたちに記事を読んだ感想を伝えている姿などが見られた。

また、今年度から高学年の廊下にも新聞コーナーを設置し、比べ読みもできるよう4社



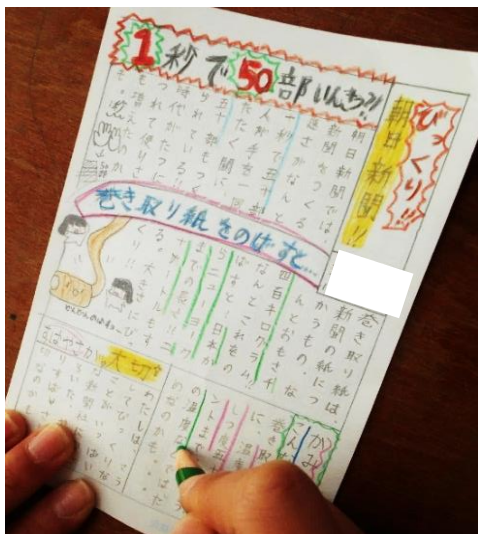
の新聞を並べて置いた。すぐ手に取れる場所に置いたこと、そして定期的に取り読タイム（朝読書の時間）に新聞を読む「新聞タイム」を設定したことなどにより、積極的に新聞を読む子どもたちの姿が見られるようになった。



## （２）新聞作り

様々な学習のまとめとして新聞作りにも積極的に取り組んだ。社会見学や総合的な学習の時間、国語科や社会科の学習で学んだこととはがき新聞などにまとめた。

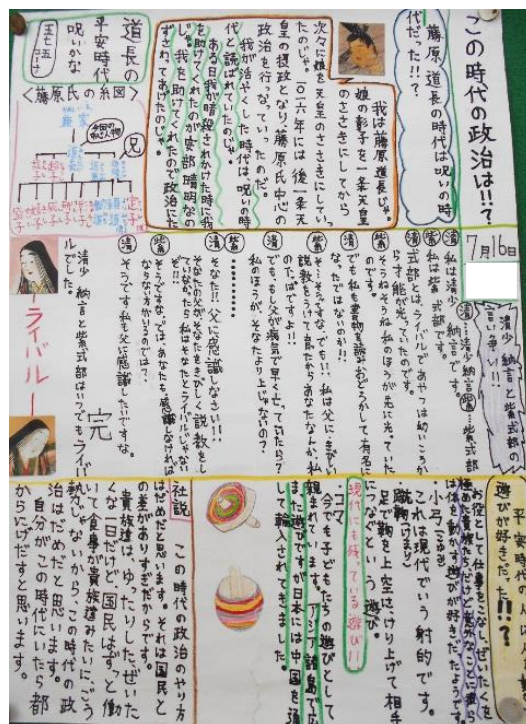
４年生では、総合的な学習の時間のまとめとして、はがき新聞作りに取り組んだ。「フジバカマ」を育てて分かったことや「アサギマダラ」について地域の方に教えていただいたことなどを、端的にまとめることと他者を意識することを目標とし、読み手のことを考えた分かりやすい新聞を作ることができた。



５年生では、社会見学（自動車工場、新聞社）に行き、見つけ出した工夫や学んだこと、みんなに知らせたいことなどはがき新聞にまとめた。また、学習内容を一言にまとめる「見出し」づくりにも力を入れ、目を引くキャッチフレーズを考えることができ、新聞作りを通して、他者を意識した「情報発信力」を養うことができた。

6年生では、社会科の歴史の学習のまとめとして新聞作りに取り組んだ。文章はどんな内容にするか、本文に合わせた見出しになっているか、小見出しは何にするかなどをじっくりと考えることで、文章を要約する力が身に付いた。

子どもたちは、限られた文字数で自分の考えを表現する難しさを感じながらも、見出しやレイアウトを工夫し、徐々に伝えたいことを明確にして、内容を簡潔にまとめることができるようになってきた。引き続き、限定された文字数で思いや考えをまとめたり、相手意識をもち表現を工夫する力を向上させたりするために、新聞作りに取り組んでいきたい。



### (3) 課外の時間

高学年では、朝の会でのスピーチとして、日直が新聞から気になるニュースの記事を選び、みんなに紹介する活動を行った。記事を友達に紹介しながら、記事の内容や読んでどう思ったか、自分たちの生活に生かせることはないかなどを活発に交流することで、子どもたちが社会のさまざまなニュースに関心をもち、自分たちのこととして考える事ができるようになってきた。



また、新聞記事を活用したコミュニケーションタイム(月2回)も行った。少人数のグループで気になった記事を紹介し、1つの記事に対して様々な意見を出し合い、話し合う中で、考えの広がりや深まりへとつながっていくことをねらいとした。友達の選んだ記事から、問題性や話題性を見つけ、お互いの意見を活発に交流することで、新聞と子どもたちの距離を縮め、より身近な存在として感じられるようになった。



#### (4) 読書週間

昨年度に引き続き、学校だけではなく家庭での読書の推進も図るため、年2回の読書の宿題にも取り組んだ。3年生以上は、1つの新聞記事をおうちの人と読み、感想を交流する「いっしょに読もう！新聞」という取組を進めた。

学習とつながりのある記事を子どもの実態をふまえ担任の先生が選ぶようにした。1つの記事をおうちの人といっしょに読み、子どもとおうちの人それぞれ感想を書き交流することで、家庭でも子どもたちの新聞を活用した交流の場を増やすことにつながった。

### 3. 成果と課題

昨年度に引き続き今年度も、新聞に親しむための継続した取組を行い、合わせて新聞活用を通じた「コミュニケーション力の育成」を進めてきた。新聞に親しむことで、さまざまなニュースにふれて社会の動きを知ることができ、さらにグループで話し合うことで対話が促され、コミュニケーションが深まる機会となった。また2年間の取組を通して、いろいろな教科や活動で効果的に新聞が活用できることが見えてきた。

しかし、今年度もやはり高学年中心の取組が多く、学校全体で取り組むことができなかった。来年度は、それぞれの学年でどの教科、どの単元で新聞を活用していくか、そしてどのような力をつけ、どんな姿を目指していくかを明確にもち、学校全体で共通理解し、6年間を系統立てて取り組んでいけるようにしたいと考えている。



いっしょに読もう！新聞 3年1組( )

**地図記号に「自然災害伝える碑」**  
13年ぶりに追加

**周りの地形も読み取って**

【感想】この地図記号が追加されたことは知らなかったけど、ぼつぼつとやがて立てるためだと分かって、この地形記号が追加されたなと思いました。平せいはいるいるなさいがいがあつたので、気をつけようと思います。この地形記号がのっていたら、どこにその記号があつたかを知らなくて、前にさいががおきた場所をかくにしようと思いました。

【おうちの人】昔と比べて自然災害が増えているのを感じています。最近では毎年のように大雨の被害がでていまして、こわいなと思います。以前どこで災害があったのかわかれば、また同じような災害が起らないように、場合によっては避難する時は、良いか、どう行動すれば良いかが前もって考えておくことができます。子どもでもこうした情報を覚えておくことは、自分の身を守るために大切なことだと思います。ただ、想像のようにいつどこで起きてもおかしくない災害もあるのだから、この機会に防災について改めて家族で話し合おうと思います。

# 新聞に親しみ教科等の指導に生かす

宇治市立大久保小学校 学校図書館司書 上野純江

## 1. 実践の概要

本校は、①学びのための全員参加、必然性のある活動をしくむ ②多面的・多角的な考えを引き出す「発問」をしくむ ③学びを見つめ直す振り返りをしくむ という3つの柱をもとに、児童のことばの力の育成を研究の重点に置いてきた。

今回NIE実践校となり、ことばの力の育成の基盤を支えるひとつとして、新聞を活用する取組を行った。新聞を読むことは、語彙を増やしたり、知識を増やしたり、分かりやすい文章で書いたりする学びになるだけでなく、情報をもとに考えたり、他の情報を付け加えたり、比べたりして、論理的な考え方を育むアイテムとなる。

また、児童が主体的に発見、選択し、他者の意見や考えの異なる仲間と対話しながら、探求する過程で、自分の考えを深め、主体的、対話的で深い学びを実現することに留意して、実践を進めた。

NIE実践初年度は、まずは、廊下に新聞コーナーを4か所設置して、新聞を読んだり、朝学習や適切な授業の時間を使って新聞記事を読み、感想を交流したりして、新聞に触れたりすることからスタートさせた。次に、担任や専科担当者と連携をとって、リクエストに応じた紙面や記事を収集して提供することにより、実践が進められるようにした。

## 2. 新聞の置き場所と保管方法

廊下に新聞コーナー（一般紙）を2か所、子ども新聞のコーナーを2か所、設置した。そこで新聞を自由に閲覧できるようにし、数紙の新聞を見比べられるようにした。



過去の新聞は図書室で保管し、児童が自由に手に取れるように置いた。

キャスター付きの3段ラックに置いているので、各クラスへの移動がスムーズにでき、必要な場所でタイムリーに活用することができた。

新聞記事は記者によって深く情報読解されていて、児童が新聞記事を読むことで、新聞に取り上げられている社会の変化やそれを生み出している人間に関心を持つことを目指している。



### 3. 実践の内容

学習に関連する新聞記事を、各教科の授業にどのように有効活用できるか、学年の先生方や専科の先生方と相談をしながら、実践をすすめた。

#### (1) 6年生 総合的な学習の時間「宇治学」関連での活用

6年生は総合的な学習の時間で「宇治学」として地域の歴史や産業、自然、人やものを学んでいる。

宇治に関する新聞記事を切り抜き、ファイリングしたものを児童が活用することにより、宇治市について詳しく調べることができた。タイムリーな新聞記事を読むことで、宇治のことに、より興味を持って学習に取り組めた。また、多くの記事の中から、必要な情報を取捨選択したり、情報と情報をつなぎ合わせたり、比べたりして、自分の考えを深めることができた。新聞記事にある問い「なぜ?」「どうして?」を発見し、仲間と対話、協働し、自分の考えを深めていく。

さらに、「まとめ新聞」を作成する際に、分かりやすく、効果的な紙面を作成することにも、多くの新聞を活用することができた。

#### (2) 6年生「家庭科」関連記事での活用

「共に生きる」という単元で、住みよい生活環境にするためにどんなことができるか考えて、環境についての新聞を作る授業の導入で、新聞記事を紹介した。



- ・物や時間の使い方
- ・エネルギーの使い方
- ・資源を生かす活動
- ・地域社会のルールやマナー

これら4つのテーマを中心に、ゴミ袋の有料化や、環境問題についての記事などさまざまなものを、新聞から選び、それをもとに児童にテーマを考えさせた。



新聞は新しい情報が常に得られる。

記者による正しい取材、読解に基づいて、記事が書かれている。記事を読み、記者の思考に向き合い、児童の深い学びにつなぐことができる。新しく、タイムリーで身近なことから課題を見つけ、テーマを設定することで、より高い問題意識をもつことができた。それについての考えを多面的、多角的にもち、決めることができた。

### (3) 5年生 国語「新聞を読もう」・社会「情報化社会を生きる」教科横断的活用

同じ記事を、複数の新聞で読み比べる。(カルロス・ゴーン氏についての記事)

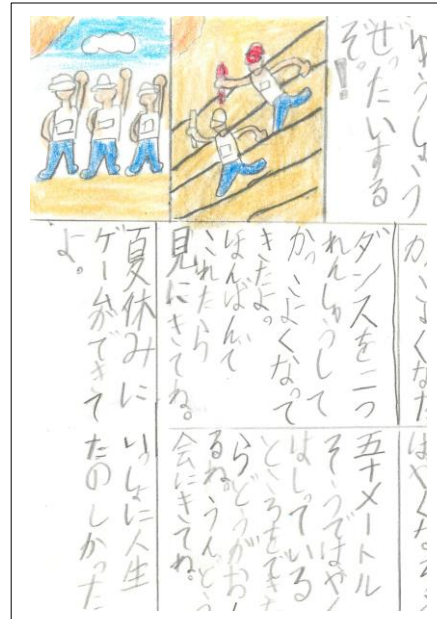
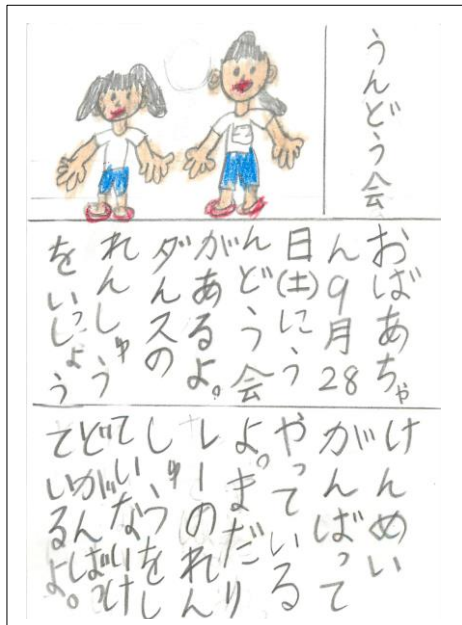
一連の事象を各紙がどのようにとらえ、報道しているかを比べることにより、伝える側の意図や読む側の印象を整理して考えることができた。情報を的確に捉えたり、考えたりする学習を「今起こっていること」で行うことができた。児童の興味や感心も高く、主体的な学びという面でも効果的であった。

### (4) はがき新聞・新聞づくり(学年の教科や委員会などで)の取組

見出し、イラスト、伝えたい文章を構成し、見た目ですぐ分かる内容やインパクトのある見出し、効果的なイラストを使い、内容を短くまとめながらも、過不足なく伝わる文章を1枚のはがき大の用紙に表した。

#### ① はがき新聞(2年 生活科)

生活科「運動会の練習でがんばったことを伝えよう」の学習を、はがき新聞を書くことをとおして行った。はがき新聞は、絵と文字のバランスが良く、レイアウトにそって書くだけで仕上がり取り組みやすい題材である。1枚にまとめることで、読み手も読みやすく、伝えたいことを焦点化して書くことができたことにより、児童が意欲的に生活科の学習を進めることができた。



## ② はがき新聞 (図書委員会)

前期図書委員会、後期図書委員会ともに、それぞれ、図書室にあるおすすめの本を紹介する取組を、はがき新聞を作成することで行った。書き方が明確で、コンパクトに伝えたいことをまとめることができた。図書委員は、効果的な広報の仕方を学ぶことができた。また、広く読書活動の推進に役立てることができた。

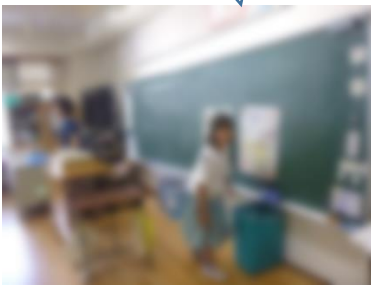




### ③ 新聞づくり（3年 総合的な学習の時間）

社会見学で宇治市立中央図書館に行ったことをもとに、図書館新聞を作ろうという取組で、新聞を使って、書き方の参考にした。目的に合った、読みやすく効果的な構成で新聞を作ることができた。伝える楽しさと読む楽しさを味わうことができた。

黒板で確認



### (5) NIEタイム

朝学習の時間に新聞記事を読む取組を行った。

新聞記事は、低学年用、中学年用、高学年用に興味や発達段階に応じて、図書館司書が記事を選び、児童全員で新聞を読み、感想を交流した。高学年はひとこと感想を書いた。

全児童が新聞に触れることができ、確実に多くの文章を読むことができた。

様々な文を読むことにより、読むことの幅を広げるだけでなく、多くの話題から、自分の考えを持ち、友達の考えを知る機会となった。記事の内容を多面的、多角的にとらえることができた。



ひとこと感想

教室掲示用に拡大コピーをした新聞記事

廊下の掲示物は、各学年が学ぶ単元に関連のある新聞記事を掲示した。

廊下に足を止めて、掲示を読む児童が多く見られた。

また、友達同士でいるときに、その記事について話をしている姿も見られた。タイムリーで興味のある内容を選んで掲示することにより、児童の好奇心や探求心が高められた。



#### 4. 成果と課題

##### <成果>

全校児童865名全員が新聞記事を読んで、ひとこと感想を書いたり、感想を交流したりして、新聞に親しむことができる取組をし、様々な文章に触れる機会を多く持つことができた。

新聞を購読していない家庭もあり、普段新聞に触れることが少ない児童も多いため、4か所の新聞コーナーを作り、身近に新聞があるようにし、いつでも自由に児童が閲覧できるようにして、新聞に関心を持たせるようにした。児童が興味を持って、紙面を広げたり、多くの文章に触れたりして、情報を取捨選択できるようにすることにより、学びを広げることができた。

新聞記事を読むことで、今まで知らなかった語彙を増やしたり、誰にでも分かりやすい文章を読むことで、自分も分かりやすく文章を書く参考にしたり、考えを深めたり、比べたりして、児童のことばの力を育成することにつながった。

また、新聞を活用して教科の学習を補強し、論理的に考え、話したり、書いたりする力を育むことができた。新聞記事を使うことにより、児童がより主体的、対話的に深く学ぶことが実践できた。

##### <課題>

児童数が多いため、新聞記事のコピーを読む取組が多かった。新聞そのものから、児童が自分で興味のある記事を見つけたり、切り抜いたりする取組が少なかったため、今後はバックナンバーも使いながら、取り組むことを充実させていきたい。

さらに、情報を活用していくために、どの学年のどの教科のどの部分にニーズがあるのか、見通しを持って取組を進めていきたい。

小学校 中・高学年 国語科・社会科・総合的な学習の時間

# 新聞に親しみ、新聞を通して 自分の考えを深めよう！伝えよう

伊根町立本庄小学校 教諭 西原 栄廣・橋本 愛

## 1. 本校の実態

本校では、毎年行われる『全国学力・学習状況調査』や京都府が実施する『学力診断テスト』等の質問紙において、『読書は好きですか』や『新聞を読みますか』といった質問に対して低い数値を示している。児童の活字離れと言われていたが、本校の児童においても例外ではなく、活字離れが進んでいる。そこで、新聞等の『生きた活字』に学習を通して触れさせることで、その良さや新しい発見に気付かせ、新聞記事から新しい情報を取り入れ、生活や学習に活かしているようにすること、そして、文章が何を伝えようとしているかを読み取る“読解力”を身に付けたいと考え、今年度N I Eの取組に参加し、取組を進めて行くこととなった。

## 2. 実践事例

### ①新聞の読み方指導

新聞を読む経験の少ない児童にいきなり読むように言っても、なかなか『読んでみよう！』という気持ちにはなりにくい。そこで、新聞の見方・読み方について、全校指導を行った。新聞の仕組みや簡単な用語や読む順序、発達段階に応じた記事の選定などについて指導を行った。説明に使ったスライドを掲示し、新聞を読みながらでも、読み方を振り返ることができるように、環境の整備を行った。

### ②ふれあいコーナー

本校の児童は新聞に触れる機会が少ないため、まずは新聞がどのようなものなのかを知ることから始めた。そして、保護者・地域の方も来校されることも多

○全部読まなくてもだいじょうぶ！

→新聞はだいたい30ページ

全部読むのはたいへん

気になったところを「ひろい読み」するだけでもだいじょうぶ

○見出しは読む！

→新聞は「伝えたい大事なこと」が最初に書いてある

見出し ⇨ 前文 ⇨ もう少し先 ⇨ 最後まで

### ②新聞でどんな力が身に付くの？

○読む力

内容について筋道立てて書かれている文章を読むことで、「よいお手本」となる文章がどのような文章かが分かるようになる。

○書く力

よい文章がどのような文章かが分かれば、それを参考にして書くことができるようになる。

○活用する力

いろいろな学習で行う調べ学習やスピーチの内容、詳しく知るための資料として活用できるようになる。

いため、取組をしていることを知ってもらうため、そして、保護者・地域の方々にも目に触れてもらうために、玄関入ってすぐの場所に『新聞コーナー』を設けた。最初の内は、素通りしていた児童だったが、徐々に足を止め新聞を開いて読む姿が見られるようになった。国語辞典や漢字辞典を近くに置き、分からない言葉や漢字をすぐに調べられるようにした。また、保護者・地域の方々も、来校された際に、新聞記事の読み比べをしている様子も見られ、啓発にもつながることができた。



### ③スピーチ活動

新聞をただ読むだけではなく、紙面から取り入れた情報をアウトプットしていくために、本校では『スピーチ活動』として取り組んだ。本校は、へき地・小規模校であり、大勢の人たちの前で発表するという機会はありません。そのため、いざというときに尻込みしてしまう児童や、自分の思いや考えを発表することに苦手意識を持っている児童が少なくない。そこで、3年生以上の児童について、自分が選んだ新聞記事から、内容や自身の考えや想いを発表する取組を進めた。始めた当初は、どのようにまとめたらよいか分からず、記事を写すというだけではあったが、回数を重ねる内に、記事の写真やグラフ、図などをスクリーンに映し、指差して注目させながら、発表する児童や、記事を読んで思ったことや感じたこと、考えたことを丁寧に自分の言葉でまとめられるようになり上達してきている様子が見られるようになった。

スピーチ活動(5/6年) ( )年( )月( )日

○自分が選んだ記事

ぼく・わたしが選んだ記事は

です。

○読んでみようと思った理由

からです。

○記事に書いてあることをまとめましょう。

この記事には、

○読んでみて感じたこと・思ったこと・考えたこと・学んだこと

かがえる。特に、高学年の伸びが顕著で、全校児童のよいお手本として発表している。そして、発表した原稿を模造紙に貼り、廊下に掲示して、いつでも見たり読んだりできるようにした。一度聞いた発表であっても、もう一度記事を読んでもみる児童や、児童がまとめた文章を聞くだけでなく、読んでみる児童も見られ、文章や活字に対して積極的に関わられるようになってきている。



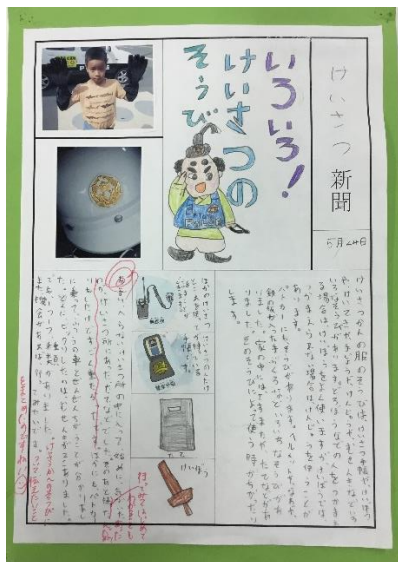
#### ④教員の選定した新聞記事の掲示

③で述べたスピーチ活動において、児童は新聞に慣れ親しんできているが、我々教職員も、新聞に慣れ親しんで普段の学習に新聞を活かしていく必要があると考え、教職員もスピーチ活動にチャレンジした。教員が気になる記事を選定し、その記事の内容を児童がまとめている用紙にまとめる取組を行った。実際にやってみると難しく、児童はこんな難しいことをしていたのかと驚かされた。しかし、教員も何度も新聞記事を読み込み、記事内容をまとめて掲示し、児童の啓発及びお手本とすることができた。児童のみが実践するのではなく、教員も共に取り組んでみることでその難しさを実感し、今後に向けて、どのような指導が必要かを明確にすることができた。

#### ⑤社会科での実践

社会科の単元のまとめは新聞づくりに取り組んだ。4年生は、1学期は「警察署」「消防署」「浄水場」、2学期は「ごみ処理場」「地域の発展につくす人々」、3学期は「私たちの県」についてまとめ新聞を書いた。1学期は、社会見学で行った施設について、『他学年に伝えたいわたしの発見』をテーマに分かったことや自分の考えをまとめて書くことを目標に取り組んだ。学習したことを分かりやすく伝えるためには、写真を使ったり、イラストを描いたりすることが大切であると気が付いた。2学期からは、クイズや4コマ漫画などを割り付けに取り入れ、読み手の目を引く工夫を考えた。さらに、3学期になると、学習をまとめるだけでなく、学習をもとに興味を持ったことや伝えたいことに合う表やグラフなどの資料をインターネットから検索し、より説得力のある文章を書くことができた。

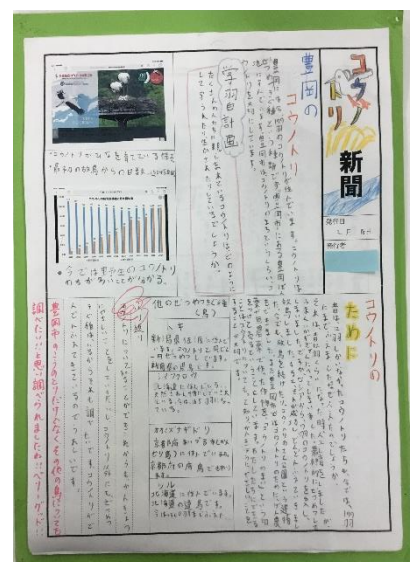
これらの変容は、国語科「新聞をつくる」(東京書籍)や算数科「折れ線グラフ」(啓林館)など、様々な教科の横断的な積み重ねによるものであると考えられる。特に、国語科では新聞の割り付けや読み手に合った文章を作成することなどを通して、新聞の向こうの読み手を意識して文章を考える力が身に付いた。



1 学期



2 学期



3 学期

#### ⑥はがき新聞の取組

国語科の物語文の学習において4・5年生ははがき新聞づくりに取り組んだ。まずは、新聞と普通の作文や論文、報告文の特徴の違いについて話し合った。その中で、①新聞は限られたスペースの中で書くこと②事実と意見を分けて書くこと③読者に向けて書くことなどが違いであることを確認した。はがき新聞はA5サイズの内紙の中に、短い文章で書く力が求められる。全国学力調査では記述式の問題に弱いこと、とりわけ「無回答」として何も書けずに提出する児童がいることが分かった。はがき新聞を書くことは、書く力を身につける上でよいトレーニングとなるのではないかと考えた。限られたスペースの中に書くためには、一定の字数の中で必要な事柄を書く、「短作文」の力をつけることが大切である。今回は、4年生では「ごんぎつね」5年生では「大造じいさんとガン」の物語文の各場面のまとめとしてテーマを限定して書いた。また、今回は物語文の内容を“事実”、自分の考えを“意見”としてとらえ、どちらも必ず書けるよう指導した。さらに、読み手を全校児童と設定し、1年生から6年生まで全員に伝わるように書くことを確認した。誰もが読みたくなるような新聞にするために、見出しをどのようにすればいいのか考えを出し合った。また、作成したはがき新聞をコピーして複数枚



製作し、学級内で交流した。友だちのいいところを見つけたり、アドバイスをしたりすることで、交流し、相互に評価することが効果的で、友だちのいいところを取り入れてやってみたいという意欲にもつながり、よい学び合いとなった。

また、学習発表会や地域の文化祭に全場面の新聞を掲示し、地域の方にも見ていただくことができた。はがき新聞を書く活動を通して、事実と意見を交えた文章を短くまとめる力が高まったと考えられる。自分の考えや思いをいかに分かりやすく伝えるために、結論から文章を書く児童が増えた。また、常に自分が一番言いたいことは何かを考え、一番伝わりやすい表現方法を考えたり、話し合ったりすることができた。

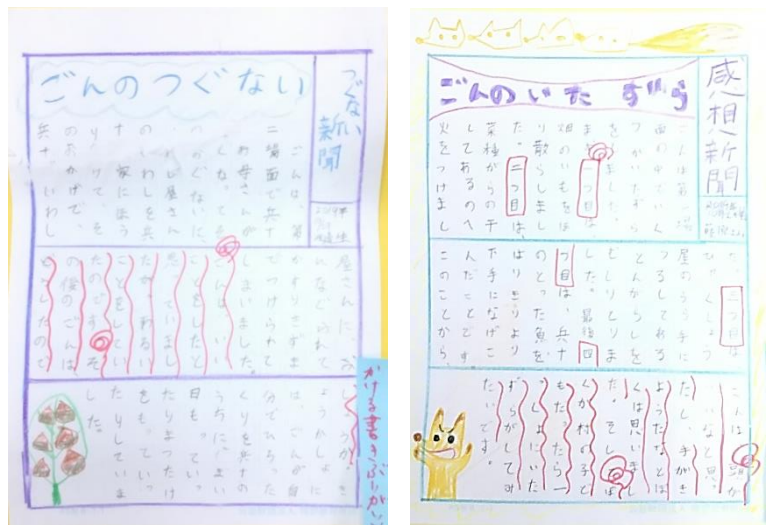
### 3 実践の成果と今後の課題

#### <成果>

年度初めの様子から比較すると、新聞や読書など活字に触れている、もしくは触れてみようとする児童は確実に増えてきている。その結果、新聞の記事から情報を得たり、得た情報を周りの児童や教師に話そうとしたりする児童の姿も見られるようになってきた。知ることができた内容は誰かに知らせたくなるという姿も多くなってきている。話すことで伝えたり、書くことで伝えたりする機会を多く設定することで、子ども達の「伝えたい」という思いと「知りたい」という思いを引き出すことができた。

#### <課題>

児童一人一人の語彙量については課題が残るため、今後についても読む量を徐々に増やしていくことも考えていかなければならない。また、意味の分からない言葉も「分かったつもり」で読んでしまうことが多く、一つ一つの言葉の意味を正しく理解させたいうえで、読んだり、書いたり、話したりする活動を取り入れていながら、児童の主体的な学びの実現に向けて、方策を考え実践を積み重ねていきたい。



## N I Eで実践する新聞の読み比べ授業

京都市立下鴨中学校 教諭 松坂 亮児

### 1. 学校としての取り組み

本校は、昨年度からN I E実践校の指定を受けたことをきっかけに、職員室前にその日の6社の新聞を配置、また過去の新聞は図書室に保管し、誰でも気軽に新聞に親しむ工夫をしてきた。結果、昼休みなどに新聞を読む生徒も見かけるようになり成果が出ているように感じる。一方、この取り組みが周知徹底できていないことから「知らない生徒」や知っていても「興味がなく関心がない生徒」もいる。そこで、これからは広める工夫や興味をもたせる工夫が必要になってくる。

また、各教科にも授業中に新聞を活用してほしいという旨を教員に伝えたところ、1・2年生の国語・2・3年生の社会で実践していただけることとなった。

### 2. 授業での実践

#### ① 1・2年生国語「6社の記事の取り扱いの読み比べ」

- 6社の第1面の記事を黒板に貼り生徒が見える形にしておく。また、その第1面をタブレットで撮り、テレビに映して1社ずつ確認していき、同じ内容の記事でも取り扱いの違いなどに気づかせた。
- ラグビーのワールドカップが開催されていた時期には、ラグビーに関わる記事をコピーしておき、各班グループで読み比べを行った。ラグビーというスポーツ関係の記事であることや今流行りの内容であることから生徒も興味をもち、学習することができた。
- 各班グループになりそれぞれ担当の記事を決め、特徴をまとめて全体に発表させた。自分たちでまとめ発表するということにより、読むだけでなく、まとめる力・伝える力をつけさせることができた。
- 身近な記事(今回は祇園祭に関するもの)を教師が読み上げ、生徒は聞き取り、メモをさせる。その後、教師が質問をして答えさせるような学習を行った。ここから読む力だけでなく、聞く力・書く(メモを取る)力をつけさせることができた。
- 上の内容など必要に応じてノート・ワークシートにまとめさせた。

#### ② 2・3年生社会「授業前に今日の第1面(もしくは今日の身近な記事)を伝える」

- 社会の授業開始時に新聞記事を教室に持っていき、新聞の内容を生徒に伝えることをした。また数社を比較することにより、記事の違いなども学習することができた。また定期テストには時事問題などを出し、リアルタイムの社会情勢についての知識の定着をはかった。



## 図表を指しながら記事の内容を説明し、考えをもつ

京都市立深草中学校 教諭 四方 覚子

### 1. 実践の概要

社会生活で必要とされる言葉の力を付けるために、教科書教材を中心に用いて授業を行っているところであるが、教科書のみを用いた授業では、ともすると限られた量の文章を読み取ったりそれに基づいて考えたりするときに、社会生活での実用と比べると、多くの時間をかけ過ぎてしまうことがある。



読書は、十分な量の文章を、各自の関心に基づいて読み取ることになる点では有意義な活動だが、生徒はライトな内容・文体の作品を好む傾向があり、生徒まかせの読書では、社会生活に必要な言葉の力を必ずしも伸ばすことにつながらないのではないかとこの心配がある。

その点、新聞の記事は、内容的には幾重にも校閲され、文章の質としては、限られた量でできるだけ多くの内容を伝えることができるよう無駄を省き、誤解釈を誘うことのないよう磨かれている点で、社会生活で必要とされる言葉の力を付けるための教材として適切なものだと言えるだろう。

新聞を用いた授業が、教科の目標を達成することに資するものであることを確かめるために、学習指導要領上の位置づけを明らかにしておきたい。

新学習指導要領にある国語科で指導すべき事項に「文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること」がある（第2学年 C 読むことウ）。この実現のために今回は、NIEによりご提供いただいた6紙から、図表を含む記事を複数選び、それらから生徒の関心に基づいて1つ選ばせて用いる



ことにした。読み取った記事の内容を「テレビに映した図表を指しながら他者に説明する」という言語活動を設定してゴールイメージをもたせ、主体的な学びとなるよう計画した。また、3年生の指導事項「表現の仕方について評価すること」に近づけるよう、記事にあ

る図表について、内容と照らし合わせて改善点を挙げることも課すことにした。そして、説明の聞き手となったときは、記事の内容について意見をメモすることとし、「論理の展開などに注意して聞き、……自分の考えをまとめること」(A 話すこと・聞くこと エ)の練習的な課題にもなると考えた(ちなみに、図表を指しながら説明する言語活動が、ウ「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」に該当しように思えるが、説明内容が自分の考えではないため、これには該当しない)。

このように、教科の目標をより確かに達成できるよう、新聞を用いる。

## 2. 実践の内容

### 第1時 記事を選び、内容の読み取りを始める

この単元の計画を知らせ、見出しなどを手がかりに11の記事を大まかに読ませ、取り組む1つを選ばせた。

予め授業者が選んだ11の記事は、中学生の体力、大学入試の経緯、農薬の生態系への影響、孤立する高齢者への支援、コンビニ店舗数、簡易宿所の経営状態、屋久島の観光客数、台風の影響者数、還付金詐欺、首里城火災の影響、白物家電出荷額といった内容のもので、文章の量や含まれる語彙、どのくらいの前備知識が前提として必要なのかなど多様なものとし、それらから「頑張れば分かりそう」と思えるものを自分で選ぶよう伝えた。

この時間は、選べた生徒から、ノートに内容を箇条書きにし始めるよう指示した。

### 《家庭学習》

The image shows a student's handwritten notes on grid paper. The notes are organized into columns and rows, summarizing various news items. The items include '利便性' (convenience), '景観修復' (landscape restoration), 'リーマン・ショック' (Lehman Shock), 'エコウィル' (Eco-Wireless), '雇用' (employment), '経営管理' (management), '人手不足' (labor shortage), '相対的' (relative), '風評被害' (wind rumor damage), '相対的' (relative), '押しやられて' (pushed away), '局地雨' (local rain), '風評被害' (wind rumor damage), '相対的' (relative), '人手不足' (labor shortage), '経営管理' (management), '雇用' (employment), 'エコウィル' (Eco-Wireless), 'リーマン・ショック' (Lehman Shock), '景観修復' (landscape restoration), and '利便性' (convenience). The notes are written in a clear, organized manner, reflecting the student's understanding of the news items.

語彙力が広い範囲の学びにプラスに影響することが今また強調されている。このため主に家庭学習で「自分で意味のわからない語句を調べ、ノートに記す」とした。

←自分の判断で語句を選び、調べ

た。

新聞の記事で用いられている語句は、文字どおり社会生活で必要とされるものである。日本語の語句は、英語科の「必修単語」ほどは明確に「中学校卒業までにこれだけは指導すべき」と明示されていないのではないだろうか。「局地的」「策定」などは、何年生で使わせることになっているのだろう。漢字は、小学校配当漢字や常用漢字のように習得が求められる範囲が明確だが、「小学校配当語句」「常用語句」といったものは目にしない。

記事の内容を箇条書きに。→

「箇条書き」は以前から行ってきた学習活動だが、今も立派な言語活動の一つと言え、文章との対話ともなっている。



こうした発表や説明のために“班内で役割分担”させる方法がよく見られたが、その場合たとえ発表はうまくいったように思えても、一人一人の生徒に求められる資質・能力が確実に身に付くかどうか不確かなので、今回も本校の他の例と同様、各自が全てのプロセスに取り組んだ。

## 第2時 内容を、図表と関連付けながら読み取る

記事の内容を伝えるだけでなく、「図表の改善点」を一つ挙げることになっているため、説明会の準備として、「その図表で伝えたいこと・わかりやすくしたいことはどんなことか」を理解した上で、「そのために図表がどうであればさらにわかりやす

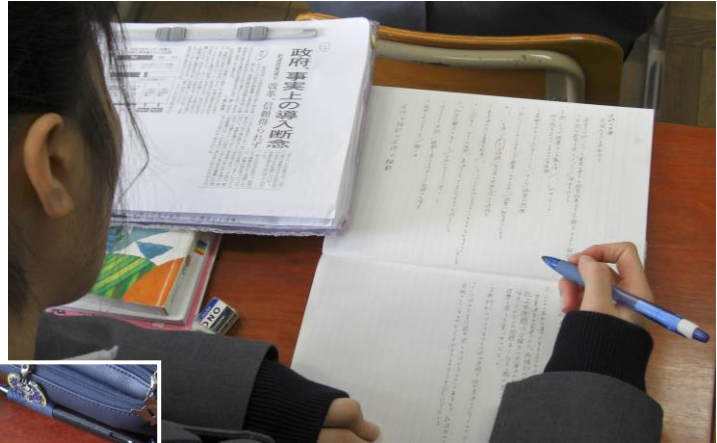


↑記事の内容のまとめとは別に、グラフの批評をノートに箇条書きにしている。

いか」という視点で記事・図表を見直す必要もある。

社会生活上の実用としては、文章の内容を理解できる力があればよいのかもしれないが、既存の文章等の表現の仕方を吟味する目を育てることで、他者の表現の改良を助けたり、自分の表現を推敲したりすることにつながる。「批評」という言葉を冷たいものと受け止める風潮がまだ少しあるが、批評することは、対話、協働、主体的な学びにつながると思われる。

説明会を行うという意識しやすいゴールを設けることで、社会人を読み手と想定して書かれた新聞の記事を、自分の力で読み取っていく姿がたのましい。



### 第 3 時 説明会の準備

説明会での発表のためのスキルは、総合的な学習の時間に1年生のときから取り組んできたポスターセッションの活動をとおしてある程度身につけているため、読み原稿を書く生徒はほとんどいない。前時までに用意した箇条書きを、さらに目安時間内に伝えられるように、発表メモを用意した生徒が大半であった。また、改めて練習時間を設けなくても、生徒はこれまでの経験を生かして、いつ自分がテレビに映し出された図表のどこを指せばわかりやすいかななども、頭の中でシミュレーションして時間を過ごしていた。

### 第 4～5 時 説明会 開催

発表時間は厳格に定めず、1～2分間とした。大きなタイマーを示しながら発表させる場面がよくあるが、ともすると内容がどうであるかよりも、定められた時間ぴったり声を出し続けること自体が目標になってしまうので、生徒がそう受け止めないように、発表時間は目安程度の示し方をした。

“何分間発表しなければなりません”と指示することで、それに見合う内容を生徒に準備させたい心理が授業者に働くこともあると思われる。しかしそれは、内容を作り上げる本来の動機ではない。

利便性の悪さから、リビィは少なり。増やすためには	改善のため	2019年9月まで	2016年8月まで	1993年に世界遺産に登録された。観光客も40万人を突破。	局地的大雨での風評被害が1つ。
別の魅力のPRが欠けていた。大手旅行代理店は縄文	←	2019年9月まで	2016年8月まで	観光客も40万人を突破。	観光客激減の理由の1つとして、2017年の5月頃に見舞われた



長時間、発表が続くが、11の記事からうまいぐあいに分散して生徒が選択してくれたので、何度か同じ記事についての説明を聞くことにはなるが、心配したほど単調なものにはならなかった。たとえ記事が同じでも説明の仕方は生徒によって異なるし、図表についてのコメントはもっと多様だ。

このような活動では、“相互評価”

と称して、声の大きさやアイコンタクトがどうかなどを聞き手に評価させることも考えられるが、そのような、点検を課すような評価のさせ方は、説明内容への興味をむしろ削がせることになり、見た目はまじめに聞いているように見えるが、実のところ、話の内容への、話し手への関心を失わせてしまう。そもそも、そういった話し方のスキルについては、2年生の指導事項ではない。



それに代えて、聞き手は記事の内容についての抱いた考え（感想や意見）をメモすることにした。こうすることで、内容を聞き取ることへの動機付けがしっかりでき、熱心に聞かせることができる。見た目の姿としては必ずしも話し手の目を見ていず、手元を見てペンを走らせてはいるのだが、目が合わなくても話し手は、聞いてもらえていることを実感できている。



聞きながら自分の考えを書きとめる。→  
一つの説明に対してほんの1行の記述  
ではあるが、聞くこと自体を目標にする  
よりも熱心に聞ける。



3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1
5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2	1
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5	4	3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2	1
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

「図表のある記事の内容を解説するとともに、  
記事や図表を批評する」  
二年 組 番号 名前

### 3. 成果と課題

新聞を活用した授業に取り組んだことで、「開かれた教育課程」の一つのかたちを見いだすことができた。「大人みたいな説明の仕方、大人みたいな聞き方」を試みることができたと言えるのではないだろうか。

多様な新聞記事を用いることで、説明会に変化が生まれ、話す生徒、聞く生徒ともに最後まで落ち着いて参加することができた。

この一連の授業で全ての生徒がそう大きな抵抗やあきらめを見せなかったのは、これに至るまでの各教科や総合的な学習の時間で、より基本的な能力や技能を身に付けてきたからであると思われる。今後も、各教科等同士を資質・能力の面で関連付けて計画的に指導したい。

## 新聞を使って進路や地域のことを考え、対話力・ 考察力・情報収集力を高める授業実践

京都府立須知高等学校 実践代表者 教諭 辻垣 晃一

### 1. 実践の概要

本校は、京都府教育委員会より地域創生推進校の指定を受け、今年度から1年生の総合的な探究の時間において、「京丹波学」というテーマで学習をすることとなった。また、生徒数減少に伴って一人一人の進路をより一層大切にするという目標のもと、各教科や総合的な学習の時間でこれまでも学習を進めてきた。学習の過程で、新聞記事を使う授業は以前より本校では行ってきたが、今年度はNIEの指定を受けたことにより、一層新聞学習が推進されるよう、全教職員に周知する機会をつくり、各教科での活用を促した。

新聞の意義は、調べたい情報ありきで探し読みをすることよりも、新聞の多様で正確な情報に触れ、学習・生活・進路・仕事・趣味・町づくり・防災・受験対策・地域学習等々での活用につながることに、読む人の行動の良き道標になり得るところにあると考える。

### 2. 新聞の置き場所

学校図書館司書の協力を得て、図書室にNIEコーナーを設けた。4紙の新聞を毎日当日と前日の2日分棚に置き、常に最新の情報を取り出しやすいように工夫した。また、1週間経過すれば、教科担当者全員が切り抜きして良いというルールを作り、3日以上経過した新聞を写真のような形で大型図書の開いたスペースに置くことにした。

切り抜く際には、専用シートを作り、切り取った箇所を全員の教員が共有できるように工夫した。生徒達に対しては、授業を通して新聞4紙が一定期間図書室に置かれていることを知らせ、昼休みや放課後の時間を使って閲覧できるようにした。





NIE切り抜き記録用シート											
切り抜く新聞名に○をつけてください。						日付	ページ	使う科目	朝・夕いずれかに○	教科担当	
1	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	9月 3日	1	2-1世界史	朝・夕	辻垣
2	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	9月1ヶ月分	—	1-3総合	朝・夕	辻垣
3	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
4	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
5	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
6	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
7	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
8	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
9	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
10	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
11	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
12	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
13	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
14	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
15	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
16	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
17	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
18	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
19	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	
20	①.朝日	②.毎日	③.読売	④.日経	⑤.産経	⑥. 京都	月 日			朝・夕	

生徒一斉の例

※1は、教員が授業で使用する場合があります。2は生徒に一斉に切り抜きをさせる場合があります。※生徒だけで切り抜きさせないようお願いします。

### 3. 実践の内容

(1) 総合的な探究の時間 (担当：教諭 田口優子、教諭 辻垣晃一)

本校では、本年度より1年生で「総合的な探究の時間」(「京丹波学」)がスタートした。学習目標は、地元京丹波のことをより深く学び、主体的に情報を集め、生徒同士のコミュニケーションや本校教員・外部講師との対話的な学習を通して見出した課題を発信し、社会参加していくことにある。

そこで、情報を集める媒体としての新聞の意義について理解を深めようと、新聞を読んで感想を書く日本新聞協会の「第10回いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募をきっかけに学習を進めていこうと考えた。

1時間を使って、「新聞の読み方講座」を行った。当日配布した資料は次のページにある「新聞の読み方」シート参照。

手順 ア 「1 新聞の構成を知ろう」

新聞の1ページはどういう意味があるのか。2ページ以降はどういう分野のニュースで構成されているか、紙面上のページ数の横に書いてある「政治」「国際」「地域」などの用語をシートに記入させることで、一瞥して新聞がどういう情報で詰まっているかを確認させる。これにより、新聞が社会全般から自身の生活に直結する内容、肩を抜いて読むことができる内容など多岐にわたる一方、一定まとまって編集されていることを知る。

イ 「2 大人な読み方」

①～⑤まで順を追って説明していくことで、じっくり読む前の流し読み

のコツを学んだ。どこを重点的に読み込んでいくか、どのような視点で読むと有効かも説明した。

## 新聞の読み方

1年総合的な探究の時間

2019年度

1年( )番氏名( )

### 1 新聞の構成を知ろう

内容	内容	内容
1ページ	11ページ	21ページ
2ページ	12ページ	22ページ
3ページ	13ページ	23ページ
4ページ	14ページ	24ページ
5ページ	15ページ	25ページ
6ページ	16ページ	26ページ
7ページ	17ページ	27ページ
8ページ	18ページ	28ページ
9ページ	19ページ	29ページ
10ページ	20ページ	30ページ

### 2 大人な読み方

- ①まずは見出しを読む。とくに気になったら中身も読む。
  - ②経過記事は見出しだけ→進行中の社会問題
  - ③総括・特集は読む
  - ④社説を読む（最初は興味のあるものだけで良い）
  - ⑤「三面記事」は流す程度（テレビでも繰り返しやっている。まわりの誰かが教えてくれる）
- ※とくに興味のある（自分と関わりそうな）記事に分からない言葉が出てきたら、辞書や図書館の本やインターネットで調べる。



【新聞の読み方講座】 【新聞を交換して意見交流】 【感想をまとめていく作業中】

新聞コンクールの取組をする際、基本的に記事はどんな内容でも構わないが、できれば「町づくり」に関係ありそうな記事を抜き出し、その新聞記事を読んだ感想をまとめる取組を行った。思った以上に第1学年の生徒達全員（60名）は、「町づくり」に関係しそうな記事をほぼ全員が選び、まとめることができた。

コンクールでまとめた作品については、本校で毎年10月下旬に開催され地域の方との交流をする「須高感謝祭」で優秀作品を展示発表した。他の生徒達の作品は大判サイズのファイルに入れて、見学者が自由に手にとって閲覧できるようにした。これにより、学習の成果を学年全体・学校全体で共有することができるだけでなく、地域の方々へも還元できた。

続いて、「町づくりを考える上で材料となる記事を探そう」というシートを配布し、選んだ新聞名、選んだ記事の箇所が何ページにあるか、何年何月何日の記事か、見出しの文言を書かせた。その後、次の時間に協会の応募シートへと移行していった。事前に新聞学習を進めていたことで、コンクールのシートへの記入をスムーズに進めることができた。

新聞コンクールの取組は、個人の意見を書いた後、クラスメイトとグループトークをして意見交換したが、大変盛り上がった。自分の考えを説明し、他の人の意見を聞く経験をするのは、生徒達にとって非常に良い経験となり、「こういう学習をもっとしていきたい」といった感想を年度末のアンケートで寄せている生徒もいた。

(2) 総合的な学習の時間 (担当：教諭 山内沙樹、教諭 近藤秀樹、教諭 田口優子)

2年生で「回し読み新聞」を実施した。1つの班が3～4名程度になるようにグループを作り、次のとおり取組を行った。

【取組内容：同じ日付の発行元が異なる新聞をグループ内で回し読み、進学や就職の面接時に「気になるニュースは何ですか？」と聞かれることを想定して、一人一つ“メイン記事”を選ぶ。“メイン記事”以外の広告等についてはどれでも好きなものを選んで良いこととし、新聞への愛着を持たせる。一人一つ“メイン記事”を選んだら、グループ内で各自の“メイン記事”について発表し合い、グループ毎に“メイン記事”や広告等を1枚の模造紙に集めて貼り付け、「回し読み新聞」を仕上げる。「回し読み新聞」の最後の授業において、模造紙を前の黒板に貼り付け、グループ全員が前に出て“メイン記事”について発表し、クラス全体で新聞記事の情報を共有する。】

当学習に対して、「テレビやスマホよりも詳しい記事内容であることに気がついた。」「これから5分だけでも新聞を読みたいと思った。」「新聞を読んで読む力が上がったように思う。」「『社説』に書かれていることが興味深くて、テレビよりも(新聞の方が)良いと思



った。」といった前向きな感想がみられた。また、思い思いの広告を使うことで、ポスターのデザイン性を高めることができ、仕上がりの出来具合に生徒達も取組以前より活気づいて意見交流を行うなど、主体的かつ対話的に学ぶことができた。

3年生の「総合的な学習の時間」では新聞記事を切り抜く「新聞スクラップ」に取り組んだ。記事内容の要約と記事に対する感想や疑問点等を書き、読解力の養成に努め、進路学習（受験準備等）の情報収集の一つとして新聞を活用することができた。

(3) その他（担当：教諭 近藤秀樹、教諭 辻垣晃一、教諭 田口優子）

1年生の現代社会、2年生の地理歴史の授業では、時々生徒達の関心を引くようなニュース（内閣改造、消費税など）があったときに、当日の新聞記事を授業の導入で使い、授業づくりのきっかけにすることができた。教員が新聞記事を読んで、どんなことが書いてあるか、それを読んでどう思ったか、これから社会はどうなるかなど、教員側の思いを伝えることで、ふだん下を向きがちな生徒も関心を持って聞くことができた。家庭科のフードデザインの授業では、「食」に関する記事であれば何でもいいという形で情報収集させ、切り抜き記事に要約と感想を書かせた。生徒達が選んだテーマは、「食に関わる税金」「食の歴史」「食と健康の関係」「地域における食文化」「企業における食の取組」など、多岐にわたった。それぞれのテーマを持ち寄り、グループトークをすることで一つのテーマを通して様々な視点で考察ができることを学ぶことができた。

#### 4. 取組を終えて

今年度は、進路学習と地域学習を中心に新聞を使った学習を行った。新聞に対する愛着を持つと同時に、記事の内容に触れることで正確な情報を得ることの大切さ、情報に対して様々な見方があること、自分自身の進路や生活に直結する内容を含んでいること、これからの社会を考える上で重要な内容を持っていることなど、多くのことを学ぶことができた。課題としては、新聞毎に内容の微妙な差異があることを示す機会がなかったため、次年度はそれも含めて今年度の成果も生かしながら継続して新聞学習を進めていきたい。

## 読解力を育てるN I E活動

京都市立京都御池中学校 畑 勝美

### 1. 実践の概要

本校では、PISA型読解力を学習の基盤と考え、校下3小学校「御所南小学校」「御所東小学校」「高倉小学校」とともに小中一貫教育プロジェクト(OGGTプロジェクト)を平成17年度に発足した。そして、読解力育成のための必要な力として、「課題設定力」、「情報活用力」、「記述力」、「コミュニケーション力」の4つの力を設定し、この4つの力を互いに関連させながら「読解力」の育成に取り組んできた。

令和元年・2年度は研究テーマを「読解力を活用して、新たな価値を見出し学び続ける子どもの育成」として研究を進め、今年度はその1年次の取組を展開するとともに、N I E実践活動の準実践校として新聞活用の学びに取り組んだ。

### 2. 実践の内容

#### 【1】全校での取組

#### ① 新聞6紙の閲覧コーナー設置 全学年

本年度はだれもが通るエントランス(昇降口)に、新聞6紙の朝刊・夕刊を閲覧できるコーナーを設置した。

朝夕届く新聞を楽しみにして一人で訪れる生徒、昼休み友達と一緒に訪れる生徒。

昨年は図書室の中に配架していた新聞を、誰でも気軽にすぐ手に取れる場所に配架したことで、新聞を読みにくる生徒も増えたようである。

新聞の配架には図書担当教員をはじめ、教頭先生や、事務職員の方も携わってくださり、全校体制での取組となった。



#### ② 各教科による新聞コーナーの設置

社会科、理科、英語科等により、教科学習と関連のある記事が、学年壁面に掲示され、定期的に貼り替えられた。

10分休み、昼休み、または放課後などに、生徒達が友達と一緒に読んで語り合っている姿が見られるようになった。

これも全校体制での取組の一つである。

毎日新聞 2019. 12. 18 朝刊

京都新聞 2019. 7. 7

京都新聞 2019. 7. 21



## 【2】総合的な学習の時間における取組

### ① SDG s をテーマに市民新聞を活用した学習 7年生

「SDG s 17 の目標～今、私たちにできることはどんなこと？～」をテーマに、以下のような資料を用い、京都市の取組から考えた。

「2015年9月、『国連持続可能な開発サミット』において『持続可能な開発のための2030アジェンダ』が採択されました。このアジェンダで示されたSDG s (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、貧困や飢餓をなくすため環境に配慮しながら経済成長を促し、教育、健康、福祉、雇用など幅広い社会的な諸課題を解決しながら、持続可能な社会の実現に向けて、国際社会が2030年までに達成すべき17の目標と169の具体的なターゲットを定めたものです。日本国内でも政府・企業・NPOなど、多様な組織がSDG s 達成に向けて取り組んでいます。

2019年度、京都市はSDG s 先進度調査で全国815市区の中で1位に、また都市特性評価においても、全国72市の中で2年連続1位となりました(12月1日きょうと市民しんぶん)。」

目標を「多様な情報を関連付け総合して、今日的な課題について考えよう」とし、生徒達は京都市の主な取組(12月1日きょうと市民しんぶん)を、SDG s の17のどれに当たるか分類し、そして、自分たちの街、京都市で行われているSDG s の取組を知り、自分にできることは何かを考えることができた。



### ② 「まわしよみ新聞」の取組 7年生

#### 1) 新聞の読み方を学習

まず、次のような資料等を用い、新聞の読み方から学んだ。

#### 「これで楽しくなる！新聞の読み方」

毎朝届けられる新聞には、多くの情報量が詰まっています。例えば、一般紙の朝刊なら、40ページの場合で約25万字、新書約2冊分の情報量です。さすがに毎日、全部を読むのは大変ですし、その必要もありません。新聞の読み方にはコツがあります。

新聞記事は『見出し』『リード』『本文』と3つのパートに分かれています。『起承転結』で書かれているわけではなく、ほとんどの記事は結論が先になっています。つまり、見出しとリード文、本文の最初のほうに注目して読むことで、概要をつかむことができるのです。

ニュースの詳細まで知りたい場合は、本文を最後まで読んだり、関連記事が解説ページや社説に載っているか、読むとよいでしょう。特に社説はそれまでのニュースの流れを簡単な言葉でまとめていることが多いので、オススメです。その際、わからない言葉が出てきたら、パソコンやスマートフォンを使ってすぐに調べると、理解がより深まります。  
[https://next.rikunabi.com/journal/20160128\\_s17/](https://next.rikunabi.com/journal/20160128_s17/)  
(抜粋)



この他の資料等により生徒たちは新聞の読み方を詳しく学び、大変興味をもったようであった。「新聞は見出しで読むのか」、「左ページの右上に重要な記事が載っているのか」と、新聞への関心を大いに高めたようであった。

## 2) 「まわしよみ新聞」をやってみる

そして次に、以下のような資料を基に、「まわしよみ新聞」について学んだ。

「インターネットの『情報検索性』は非常に便利なものですが、それがゆえに自分が欲している情報のみを取得する傾向にあり、これは結果として自分の世界を狭くします。それに対して新聞は『見出しの大きさや幅』『記事の文字量や序列、配列』などによって『社会的なニュース価値』を察知することが可能です。新聞を読むことによって、自分がまったく興味、関心のなかった分野の情報にも触れ、自然と世間を広くすることが可能かも知れない。これは自己完結してしまいがちなインターネットにはない面白味ではないか？そこで、新聞の『自分の世界を広げる可能性』と『みんなでまわしよむことの可能性』を探ろう！ということで、当プロジェクトが開始されました。いつでも、どこでも、だれでもできる新しいメディア遊びを、大いにお楽しみください。まわしよみ新聞実行委員会 オーナーむつさとし

<http://www.mawashiyomishinbun.info/about/> (抜粋)

その後実際に「まわしよみ新聞」を行った。

まず、持ち物：新聞、ハサミ、ノリ、模造紙半切、ポスカを用意した。

そして、みんなで新聞を読み、「気になる!」「おもしろい!」「これは!」という記事を切り抜いた。広告でも、コラムでも、天気予報でも、どんな記事でもOK。みんなを引き付けられる記事を選んだ。(10分)

次に、ひとり1枚ずつ記事をプレゼンした。なぜこの記事を切り抜いたのか、どんなことを思ったり、考えたりしたのかを語った。(20分)

その後、みんなで「今日のトップ記事!」を決めて、上から順番に貼っていった。切り抜いた人の名前を書き入れた。ひとり3枚は貼るようにした。

模造紙右中央に、「まわしよみ新聞」、○月○日、編集局(7年○組○班)、模造紙

左中央に、編集後記（感想と名前）、を書いた。（15分）

最後に、各班の新聞を見て回った。（5分）

各クラスで制作した新聞は、学年フロアに掲示し楽しんだ。



### ③ 職場体験についての探究活動 7年生・8年生

8年生は令和元年5月のチャレンジ職場体験を終えて、7年生は令和2年5月からの職場体験にむけて、ポスターセッションを行い、仕事について考えた。

それに当たっては各自、図書及び新聞資料の閲覧及びインターネット検索等により調査を行い取り組んだ。

## 3. 成果と課題

今年度の取組として、新聞の読み方を学べたことには大きな意義があったと思われる。なぜなら、これを機に新聞に興味をもつ生徒が増えたように思えるからである。

次年度に向けては、朝読書の時間に新聞記事を読むことに取り組むなど、一人一人の生徒がより新聞に親しみ、その情報から協働して課題を解決する「読解力」の育成につながるよう取り組んでいきたいと考える。



中学校・総合的な学習の時間

## 身近に感じる「新聞」～新聞を読む習慣の確立と環境づくりを通して～

綾部市立上林中学校 船越 寿子

### 1 はじめに

NIE の実践をスタートして、3年目を迎える。図書室に新聞があること、学びタイム（掃除後から5校時までの15分間）では新聞記事を紹介すること、学期に1度はオンライン交流会（新聞を活用した異年齢グループによる交流会）があることなど、新聞を活用した取組が学校全体に浸透してきた。

本校に在籍する生徒の家庭の中には、新聞購読されていなかったり、テレビを見る習慣がなかったりする家庭もある。各教科での授業や普段の会話からも生徒が「知らない」ことを痛感する。その「知らない」ことは、各教科の学びにつながっており、生徒の基礎的な学力を支える一部にもなるものだ。本校にとって、NIE の実践は社会情勢を知る機会だけでなく、生徒の基礎的な学力を培う役割も大きく担っている。

### 2 今年度の実践

#### (1) 環境づくり

新聞の配置場所については、実践を始めてから試行錯誤を繰り返してきた。本校は、施設一体型の小・中一貫校である。1階に小学1年生～4年生、2階に小学5年生から中学3年生の教室がある。特別支援学級以外は、各学年1学級であり、教室も横並びである。教室前の廊下に置くと、誰の目にも触れやすいが、季節に左右されるので、不向きであると判断し、一般紙は図書室に配置し、生徒が手に取ったり、記事を選んだりしやすいように学習スペースに1週間分を平積みしている。

また、今年度よりPTAの予算から「読売こども新聞」「読売中高生新聞」「朝日中高生新聞」を購入していただき、「読売こども新聞」は小学5・6年生の教室前に配置。中高生新聞の各紙の過去の新聞については図書室に、最新号は、生徒用昇降口の前にある「悠々コーナー」に置いている。

今年度、栃木県で開催されたNIE全国大会に訪れた際、会場に掲示されていた「しんぶん台ちゃん」を参考に、以下の写真のように設置している。「しんぶん台ちゃん」はダンボール紙でできており、持ち運びも軽くて便利だ。新聞のトップ記事が目にとまりやすくなり、児童生徒がより新聞を手にする頻度が高まったように感じている。



↑ 児童生徒昇降口前にある「悠々コーナー」  
「あやへ新聞」と「京都新聞」を配置し  
ている。



「読売 KODOMO 新聞」は小学校 →  
5・6年生教室前の廊下に。



## (2) オピニオンタイム

毎週木曜日の学びタイムを「オピニオンタイム」として設定している。

1、2学期は、中学生全員が3つのグループに分かれて、自分がグループ内で紹介したい記事を選び、1分間でプレゼンする。全員がプレゼンし終わったら、誰の記事が一番興味をもったか発表し、感想を交流し合っている。

選んだ記事は、各個人で封筒に入れて保管し、学期ごとに画用紙に貼って分析させた。自分はどのような記事を選ぶ傾向があるか、なぜその記事を選んだのかなど、考察させてまとめたものを掲示した。

3学期は、中学2・3年生では新聞の要約にチャレンジしている。記事の内容ができるだけわかりやすいものを教員が選び、110字以内で要約させて、それを全体に発表している。中学1年生は、2・3年生と同じ記事で教員と一緒に「5W1H」を中心に探し、記事に関する感想を交流させている。



← 昼休みを利用して、紹介する新聞記事を図書室  
で探す生徒たち。

記事の内容が重ならないように、トップニ  
ュース以外から探す生徒も増えてきた。



オピニオン  
タイムで記事  
内容を紹介  
している →



↑ 1グループに7年生～9年生が混ざっている。(4名で1グループ)

### (3) オピニオン交流会

学期に1、2回程度行なっている「オピニオン交流会」は、さまざまな世代の人とお互いの考えを交流し合える場として、定着してきた。今年度の交流会については、以下のとおりである。

実施日	テーマ	活用した新聞	交流の相手
7月	「参議院選挙」 ～それぞれの党の意見を 読み取る～	読売中高生新聞 2019年7月12日付 朝日中高生新聞 2019年7月7日付 2019年7月21日付	教員
9月	「AIにできることと できないこと」	朝日中高生新聞 2016年2月28日付	東京明星大学学生
1月	「綾部市の未来」	あやべ新聞 2019年12月11日付 2019年12月13日付	保護者

昨年度、NIEアドバイザーの橋本祥夫先生（京都文教大学臨床心理学部教育福祉心理学科）からご指導を賜ったことを実践につなげることができた。

異世代間で交流することで、生徒はいつもと違う新鮮な意見や考え方に触れることができ、大きく納得したり、驚いたりと反応を示しながら自分の意見と比較していた。参加した学生のみなさんや保護者の方からは、普段は話題にすることのない新聞記事について、中学生と交流し、中学生の本音を聞くことができ、有意義な時間だったという感想をいただいた。



複数の新聞記事を読んで、意見を交わす。



大学生と一緒に「未来」について考える生徒たち。



参観日に保護者と自分たちの暮らす地域について考える。

**【生徒の感想】**

- ・世代関係なく、考えていることが同じことがありました。でも、表現の仕方が違ったので、自分の考えが深まったと思います。
- ・前回のオピニオン交流会よりも、保護者の方が参加されたことで、これまで出なかった意見が聞けて意見が深まりました。

**【保護者の感想】**

- ・中学生と大人での思いの違いが多く、今後、若い子たちにどのように綾部の良さを伝えていけるかなと考えさせられることが多かった。
- ・交通事情や買い物の環境は、子どもたちにとって切実な問題だとよくわかりました。

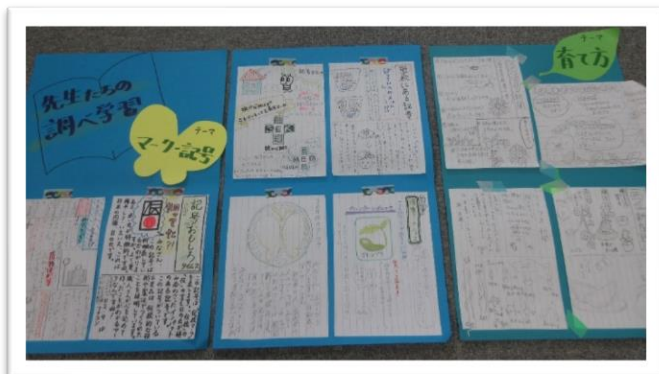
年々、生徒の人数が減少し、生徒の語彙力や論理的な話し方、意見に対する質問内容など、学びの広がりや深まりに限界を感じることもあった。しかし、今年度、新聞記事を通して異世代の方との交流をもつことで、新たな学びの広がりや深まりを感じることができた。

**(4) 校内研修**

NIE 担当教員が異動すると、その学校での実践が途絶えてしまうことが多いと聞き、今年度は小学校と中学校教員全員に向けた校内研修を実施した。(資料参照)

グループに分かれて「はがき新聞」を作成するなど、ワークショップを交えて取り組んだことで、NIE の必要性や児童生徒の課題を共有することができ、実践につながる研修にすることができた。

図書館教育と連携し、図書資料を使った調べ学習を行った。



### 3 おわりに

中学3年生の入試の面接練習で「あなたは普段から新聞を読んでいますか？」という質問に、「読んでいません」と即答した生徒がいた。週に一度は、必ず新聞記事を読んでいるにもかかわらず、「読んでいない」と答えたのだ。その生徒にとっては、まだ主体的に読んでいるのではなく、「オピニオンタイムがあるから読んでいる」にとどまっているのだと感じさせられた胸にささる出来事だった。

新聞を読むことを習慣化するには、長い年月と、新聞の魅力を伝え続ける教員の粘り強い指導が大切である。新聞には何がどのように書いてあるのかを指導することと、新聞を手にするまでの環境づくり、新聞は読めば面白いんだという仕掛けづくりなど、手に取ってから読むまでの道を丁寧に示すことが、習慣化につながるのだと感じる。

小学5年生の校外学習では、毎年、新聞社を見学していることをふまえ、NIEの実践と組み合わせることができないかと、来年度への実践に思いを馳せている。NIEの実践は、やればやるほど新聞の魅力を発見できる。今後も学校全体で取り組み、さまざまな先生から豊富なアイデアを取り入れて、新聞を児童生徒の身近な存在にできるよう研鑽していきたい。

年度	校数	＜これまでの実践校・準実践校・奨励校・トライアル校＞
1994	2	聖母学院小学校、京都府立商業高等学校（現すばる高等学校）
1995	3	聖母学院小学校、京都市立修学院中学校、同志社高等学校
1996	3	京都市立百々小学校、京都市立修学院中学校、立命館宇治高等学校
1997	3	京都市立百々小学校、京都市立修学院中学校、立命館宇治高等学校
1998	2	京都市立百々小学校、京都市立修学院中学校
1999	3	京都市立養正小学校、京都市立吉祥院小学校、京都文教女子高等学校
2000	3	京都市立養正小学校、京都市立吉祥院小学校、京都文教女子高等学校
2001	6	京都市立山王小学校、京都市立清水小学校、大山崎町立第二大山崎小学校 京都市立花山中学校、八木町立八木中学校、京都文教女子中学校
2002	9	京都市立山王小学校、京都市立清水小学校、大山崎町立第二大山崎小学校 京都市立衣笠中学校、京都市立伏見中学校、八木町立八木中学校 京都文教女子中学校、京都府立北稜高等学校、花園中学高等学校
2003	10	京都市立第三錦林小学校、京都市立山階小学校、亀岡市立曾我部小学校 八幡市立美濃山小学校、京都市立衣笠中学校、京都市立伏見中学校 向日市立勝山中学校、京都府立北稜高等学校、花園中学高等学校 華頂女子中学高等学校
	4	(準)京都市立山王小学校、京都市立清水小学校、大山崎町立第二大山崎小学校 八木町立八木中学校
2004	10	京都市立第三錦林小学校、京都市立山階小学校、聖母学院小学校 亀岡市立曾我部小学校、八幡市立美濃山小学校、京都市立洛北中学校 京都市立洛南中学校、向日市立勝山中学校、長岡京市立長岡第三中学校 華頂女子中学高等学校
	6	(準)京都市立山王小学校、京都市立清水小学校、京都市立伏見中学校 八木町立八木中学校、花園中学高等学校、京都府立北稜高等学校
2005	9	京都市立紫竹小学校、京都市立嵯峨野小学校、聖母学院小学校 京都市立洛南中学校、京都市立洛北中学校、京都市立蜂ヶ岡中学校 長岡京市立長岡第三中学校、京都教育大学附属桃山中学校 京都市立塔南高等学校
	8	(準)京都市立第三錦林小学校、京都市立山階小学校、八幡市立美濃山小学校 京都市立伏見中学校、向日市立勝山中学校、京都府立北稜高等学校 花園中学高等学校、華頂女子中学高等学校
2006	10	京都市立紫竹小学校、京都市立嵯峨野小学校、京都市立鏡山小学校 城陽市立寺田西小学校、京都市立蜂ヶ岡中学校、京都市立旭丘中学校 京都教育大学附属桃山中学校、亀岡市立育親中学校 京都市立塔南高等学校、京都市立洛陽工業高等学校
	7	(準)京都市立第三錦林小学校、京都市立山階小学校、八幡市立美濃山小学校 京都市立洛北中学校、京都市立洛南中学校、長岡京市立長岡第三中学校 華頂女子中学高等学校
2007	11	京都市立鏡山小学校、京都市立静原小学校、京都市立松尾小学校 城陽市立寺田西小学校、向日市立第5向陽小学校、京都市立旭丘中学校 京都市立久世中学校、京都市立西京高等学校附属中学校、同志社中学校 京都府立園部高等学校、京都学園高等学校
	7	(準)京都市立紫竹小学校、京都市立嵯峨野小学校、京都市立洛北中学校 京都市立蜂ヶ岡中学校、京都教育大学附属桃山中学校 京都市立洛南中学校、長岡京市立長岡第三中学校

年度	校数	＜これまでの実践校・準実践校・奨励校・トライアル校＞
2008	10	京都市立静原小学校、京都市立松尾小学校、京都市立吉祥院小学校 向日市立第5向陽小学校、京都市立久世中学校 京都市立西京高等学校附属中学校、京都市立下鴨中学校、城陽市立西城陽中学校 京都府立園部高等学校、京都学園高等学校
	2	(奨励校) 立命館小学校、京都市立周山中学校
	5	(準) 京都市立紫竹小学校、京都市立鏡山小学校、京都市立蜂ヶ岡中学校 京都市立旭丘中学校、京都教育大学附属桃山中学校
2009	10	京都市立吉祥院小学校、京都市立安井小学校、京都市立一橋小学校 京都市立二条中学校、京都市立下鴨中学校、京都市立桂中学校 城陽市立西城陽中学校、綾部市立上林中学校、宮津市立養老中学校 京都府立鴨沂高等学校
	6	(準) 京都市立静原小学校、京都市立松尾小学校、向日市立第5向陽小学校 京都市立西京高等学校附属中学校、京都府立園部高等学校 京都学園高等学校
2010	10	京都市立月輪小学校、京都市立安井小学校、京都市立一橋小学校 福知山市立大正小学校、京都市立北野中学校、京都市立二条中学校 京都市立桂中学校、宮津市立養老中学校 京都府立鴨沂高等学校、東山中学高等学校
	7	(準) 京都市立吉祥院小学校、京都市立松尾小学校、京都市立静原小学校 向日市立第5向陽小学校、京都市立下鴨中学校 京都市立西京高等学校附属中学校、京都学園高等学校
2011	10	京都市立月輪小学校、京都市立竹の里小学校、京都市立葵小学校 福知山市立大正小学校、京都市立北野中学校、京都市立向島中学校 八幡市立男山第三中学校、京都教育大学附属京都小中学校、東山中学高等学校 京都府立東稜高等学校
	5	(準) 京都市立吉祥院小学校、京都市立一橋小学校、京都市立下鴨中学校 宮津市立養老中学校、京都府立鴨沂高等学校
2012	10	京都市立藤ノ森小学校、京都市立竹の里小学校、京都市立葵小学校 京都市立西陵中学校、木津川市立木津南中学校、京都市立向島中学校 八幡市立男山第三中学校、京都教育大学附属京都小中学校、 京都光華中学・高等学校、京都府立東稜高等学校
	5	(準) 京都市立月輪小学校、京都市立一橋小学校、宮津市立養老中学校 東山中学高等学校、京都府立鴨沂高等学校
2013	10	京都市立藤ノ森小学校、京都市立朱雀第六小学校、京都市立藤城小学校 木津川市立恭仁小学校、京都市立西陵中学校、木津川市立木津南中学校 京都市立西京極中学校、長岡京市立長岡中学校、京都府立向陽高等学校 京都光華中学・高等学校
	2	(準) 京都市立竹の里小学校、八幡市立男山第三中学校
	1	(トライアル校) 宇治市立笠取第二小学校

2014	10	京都市立朱雀第六小学校、京都市立藤城小学校、京都市立明德小学校 木津川市立恭仁小学校、京都市立双ヶ丘中学校、京都市立西京極中学校 長岡京市立長岡中学校、八幡市立男山東中学校、平安女学院中学校高等学校 京都府立向陽高等学校
	5	(準)京都市立竹の里小学校、八幡市立男山第三中学校、京都市立藤ノ森小学校 木津川市立木津南中学校、京都光華中学・高等学校
年度	校数	<b>&lt;これまでの実践校・準実践校・奨励校・トライアル校&gt;</b>
2015	10	京都市立明德小学校、京都市立高倉小学校、京都市立衣笠小学校 京都市立双ヶ丘中学校、京都市立伏見中学校、八幡市立男山東中学校 京田辺市立田辺中学校、木津川市立山城中学校、京都府立東舞鶴高等学校 平安女学院中学校高等学校
	3	(準)京都市立西京極中学校、長岡京市立長岡中学校、京都光華中学・高等学校
2016	10	京都市立高倉小学校、京都市立衣笠小学校、京都市立宇多野小学校 京丹波町立瑞穂小学校、京都市立伏見中学校、京都市立大枝中学校 京田辺市立田辺中学校、木津川市立山城中学校、京都女子中学校高等学校 京都府立東舞鶴高等学校
	2	(準)八幡市立男山東中学校、平安女学院中学校高等学校
2017	11	京都市立宇多野小学校、京都市立山階南小学校、京田辺市立松井ヶ丘小学校 京丹波町立瑞穂小学校、京都市立京都御池中学校、京都市立大枝中学校 木津川市立木津第二中学校、亀岡市立亀岡中学校、綾部市立上林中学校 京都女子中学校高等学校、京都府立久御山高等学校
	3	(準)京都市立高倉小学校、京田辺市立田辺中学校、木津川市立山城中学校
2018	11	京都市立竹の里小学校、京都市立山階南小学校、京田辺市立松井ヶ丘小学校 京都市立京都御池中学校、京都市立深草中学校、木津川市立木津第二中学校 亀岡市立亀岡中学校、綾部市立上林中学校、南丹市立八木中学校 ノートルダム女学院中学高等学校、京都府立久御山高等学校
	0	
2019	9	京都市立新町小学校、京都市立竹の里小学校、宇治市立大久保小学校 伊根町立本庄小学校、京都市立下鴨中学校、京都市立深草中学校 南丹市立八木中学校、ノートルダム女学院中学高等学校 京都府立須知高等学校
	2	京都市立京都御池中学校、綾部市立上林中学校



**2019(令和元)年度 京都府NIE実践報告書**

2020年10月発行

編集 京都府NIE推進協議会事務局

〒604-8577 京都市中京区烏丸通夷川上ル

京都新聞社内

TEL : 075-241-5231

FAX : 075-241-5946